

厚内公民館だより



令和4年10月25日発行
発行責任者：厚内公民館長

11月5日は「津波防災の日」です！

「津波防災の日」は2011年3月11日の東日本大震災を受けて同年6月に制定された「津波対策の推進に関する法律」にて制定されました。この日付は1854年（嘉永7年）のこの日に発生した安政南海地震に由来します。この地震は南海トラフ巨大地震の一つとされ、和歌山県など紀伊半島や四国などを大津波が襲いました。

大津波が和歌山県広村を襲った際、庄屋・濱口梧陵が収穫されたばかりの稲わらに火をつけて、暗闇の中で逃げ遅れていた人々を高台に避難させ命を救った「稲むらの火」の逸話が残っています。

当初は東日本大震災が発生した3月11日を記念日にする案でしたが震災が起きて間もないことから、被害を受けた方々への心情を考慮して違う日付にしたとの事です。

稲むらの火は「津波の恐ろしさを」地震後の早期避難の伝える優れた津波防災教材であり、教科書だけでなく、マンガ、紙芝居など様々な形で紹介されています。また、この日は国連が定める「世界津波の日」にもなっています。

厚内に来襲した津波写真展

2011年3月11日、東日本大震災では厚内にも大津波が打ち寄せ多大な被害を被りました。

当時の関係者や町民の方々が記録した被災写真等を展示します。今一度津波の恐ろしさを...

期間：11月1日～30日（土・日・祝祭日除く）

会場：厚内公民館1階ロビー

冬場の地震・津波に備え、命を守る手立てを今から考え準備しておきましょう！

10月・11月の予定

10月26日(水)	花いっぱい運動（花壇整理）
28日(金)	懐かしの映画会「伊豆の踊子」
30日(金)	厚内子ども育成会「ハロウィン衣装」
11月2日(水)	寿かもめクラブ
7日(月)	健康カラオケ ふまねっこの会
9日(水)	懐かしの映画会
15日(火)	マーじゃん体験教室
16日(水)	寿かもめクラブ
17日(木)	巡回図書館
18日(金)	書道体験教室
21日(月)	厚内寿大学「折り紙作り教室」 ふまねっこの会
22日(火)	懐かしのレコードコンサート
24日(木)	公民館講座「ニードルフェルト体験」
25日(金)	懐かしの映画会
28日(月)	教委公民館訪問
30日(水)	寿大学運営委員会
11月中	厚内に来襲した津波写真展



厚内公民館講座 モフモフ

「ニードルフェルト体験教室」のお知らせ

厚内も秋色に染まり、羊毛の温もりが恋しくなってきました。今年も下記の日程で教室を開催致します。ご参加下さい。

日時：11月24日(木) 12時～15時

会場：厚内公民館

講師： Feltwork ZEBRA

主宰 今村恭子先生

持ち物：特にありません。先生からお借ります。

参加料：600円（材料代）

申込期限：11月9日（水） 定員：12名

申込・問い合わせ：厚内公民館（578-2407）

公民館講座「初心者マーじゃん体験教室」

日時 11月15日（火）

13:30～15:00

会場 厚内公民館

※頭と指先のリフレッシュにいかがですか。

厚内の宝物は 豊かな自然と 人々の穏やかな営みと学び

ホッカホカなピザ作りに挑戦！

9月28日、厚内公民館に料理研究家坂下禮子さんを講師にお迎えし「ピザ作り教室」が行われました。学校帰りの子供たちも合流。粉で真っ白になりながら生地をのばして地物のトマト、ナス、バジル、鮭をトッピング。皆で試食して秋の訪れを感じていました。



「子ども秋のアート教室」

10月9日、抜けるような秋空の下、公民館前の駐車場を会場に「子ども秋のアート教室」が開かれました。多摩美術大学卒、絵画・アクセサリー作家鹿戸麻衣子さんを先生にお招きして爽やかな海風を浴びながら砂浜を散策。磯の香りのする貝殻や流木を拾い木炭でデッサン。その後、色鮮やかにペイントして新しい命をふき込みました。作品は公民館内に展示していますのでご覧ください。



浦幌小学校2学年 厚内公民館見学

10月11日、浦幌小学校2学年一行20名が「厚内社会見学」の一環で港や魚の加工場を見学。その後、厚内公民館を訪問。館長から地域の産業や公民館活動について話を聞きました。子ども達からも「公民館の仕事」についての質問が寄せられ。直接、目で見て、聞く校外学習を楽しんだようです。



1500万年前の化石を発掘したよ！

9月23日、厚内公民館とオコッペ川を会場に「化石採集教室」が開催されました。朝からあいにくの雨でしたが、化石研究家の井上清和さんの熱心な指導により約1500万年前のイデタマキガイやナミガイ等を採集。10名の参加者は新生代第三紀の厚内に触れることが出来たようです。



「書道体験教室」

10月14日、久保田書道教室主宰久保田敏裕先生をお迎えし書道教室が開催されました。たっぷり墨をつけ、半紙に思い思いに2時間程筆を走らせました。参加者からの要望で11月18日に2回目の教室が行われます。是非ご参加下さい。



次回教室
十一月十八日
十三時三十分から
厚内公民館にて
行います。

中央寿大学・厚内寿大学交流会

10月13日、中央公民館を会場に中央と厚内両寿大学の交流会が行われました。例年、この時期に持ち回りで行われている事業で今年は中央寿大学が当番校。午前中はミニ運動会、午後は無声映画鑑賞と芸能発表による交流会。厚内寿大学生による踊り「真っ赤な太陽」は会場を沸かせ出席者の心をひとつにしていました。



- ◎地域で進めよう!! 「挨拶」「早寝、早起き、朝ごはん」「ノーテレビデー」「家読・朝読」運動
- ◎町民みんなで体力づくり!!
- ◎小中一貫コミュニティ・スクールの推進

浦幌町教育の日(毎日が教育の日です)



公民館エントランス改修

冬季間、除雪しても氷が凍り付き大変危険でしたが、この度、新素材の床材に改修され安心して出入りできるようになりました。



南側非常階段改修

今まで手すりが無くてご不便をおかけしておりましたがこの度設置され安全に昇降できるようになりました。非常の際にご利用下さい。



懐かしの映画会

- 十月二十八日 十三時より
題名「伊豆の踊子」
五所平之助監督 昭和八年作
- 十一月九日 十三時より
題名「出来ころ」
小津安二郎監督 昭和八年作
- 十一月二十五日 十三時より
題名「浮草物語」
小津安二郎監督 昭和九年作

懐かしのレコードコンサート

十一月二十二日 十三時より
昭和四十年代五十年代の懐かしいレコードを聴いてみませんか

文芸厚内 霜月の巻

四季の移ろいや日常の営みから生まれた言葉を紡いでみませんか ※投稿をお待ちしています

皆川昭徳

俳句

刈り終えて牧草ロール鹿の声
銀杏散る乗り降りのない無人駅

川柳

第七波そろそろ消えてもいいコロナ
天を指し地を指したまの第九条

佐藤成子

俳句

船帰航港賑やかシシャモ干す
朝夕の寒露きらめく道すがら

短歌

身の丈に合った器になるべきを
背伸びしすぎた愚かさを知る

青空へ溜息ひとつ思いつきり
天に吹き上げ嘆きを飛ばし

俳句

紺碧の空朱に染めし七竈
目美人に惑える心さやけしく
名月を酒の肴に杯重ね
雪虫を捕っておくれと稚児が乞う
夕闇に雁が音響きいと寂し

佐藤芳雄

9月18日、厚内公民館図書室に新刊が100冊入りました。ご利用をお待ちしております。



脳と体のしくみ絵事典
時限の幻
老人力
古森の秘密
海にはワニがいる
戦争の文化上・下
月光浴
習近平の支配
一芸を究めない
求めない 他 90冊

超簡単ピザ焼き窯を作ったよ！
「ピZZは窯で焼くのが一番美味しいのだ！」との話をどこかで聞きつけ、何時しかやってみよう、みたいと思い込んでしまった小生。赤レンガと焼き網、厚めのホイルで分解移動可能な仮設窯を構想。燃料は木炭。窯の組み立て、食材の収穫、ピZZの生地作り・発酵・火起こし。食すまで約6時間。熱々な一切れのピZZをワインで流し込んだあと、片付けに2時間・・・
(いつも迷走している館長でした)

特集 厚内公民館小企画展

終戦記念展示会

「戦争体験を語る」
令和四年八月二十日
寿力もめクラブ
収録



見た戦争

第2回 子どもの目で
館長 それでは、覚えてる限りで結構です。で戦時中や終戦後の頃を少し思い出し聞かせて頂きたいと思えます。まず平野さんいいですか？

平野 はい、何から話したらいいかね…。オコッペに面して防空壕があったんです。その中からオコッペの磯の方を見ると飛行機が飛んできた。それを見て「空襲だー。」と言っているうちに黒いものがバツバツバツと落ちてきた。その時はそれが機銃掃射だとはわからなかったですが、それがそうだったんですね。それで磯が船だと勘違いして撃つたんじゃないかな？それから厚内駅の方に行くと聞きました。

その時の空襲で数人死亡したそうです。館長 何時頃かわかりますか？
平野 朝八時ごろだったと思います。私、小学校3年生だったかな、防空壕に逃げたけど

ここではダメだと言われて、森の中の木の下に逃げました。

館長 この森へ逃げたのですか？
平野 私の家の裏にある森の中です。コクワの木の下にくぼみがあって、そこに隠れていました。何軒か一緒に逃げました。男の子達がいて喧嘩してギヤギヤ言うしよ、だから「大きい音を出すと敵に聞こえるから静かにしなさい！」と、私の母親は私をほったらかしにして男の子達を叱りつけていました。その子等の親は震え上がって何も言えなかつたみたいでした。

館長 何人ぐらいで避難したんですか？
平野 十五、六人ぐらいで避難しました。その時のも大きな音立てたら敵に見つかるか、煙上げたら見つかるからと言いながら生活してました。その後は空襲はなかったです。
次の日、釧路からリヤカーに布団とかをのせて避難してきたという人が二組位、家の前を通って十勝太の方に向かって行きました。どこまで行ったかはわからないね…。

館長 平野さんは親と逃げたんですか？
平野 私一人でした。兄は亡くなってたし、姉たちも旧制中学で営農に駆り出されていたからいなかったんです。その時は母と私しかいなかったけど、防空壕には母と一緒に入

ってないですね。私だけでした。

館長 戦争体験を家族に話されたことはありますか？
平野 孫が自衛隊にいるので話をしたことがあります。
館長 そうでしたか、ところで、皆さんは防空頭巾をかぶってましたか？
黒島 かぶったことあるよ。私は長万部にいたんだけど、母が帯をほぐして防空頭巾を作ってくれてそこに豆を入れて持たされましたよ。

館長 ところで、防空壕には何人位入れたんですか？
黒島 家にひとつずつあったから、中は2畳ぐらいでした。
私が5歳の時でしたが、すぐそばにポンプがあつて、みんな白い服を着てバケツに水を入れ、手渡す練習みたいなことをしてました。あと、友だちが防空壕の外に出て飛んでる飛行機を見ていたら大人に怒られ引き戻されてました。

館長 大きな被害があったんでしょうね？
黒島 沢山亡くなったと思うよ。駅を狙うんだよね。長万部も八雲とかもやられてた。5歳の頃だったけど忘れられない…。駅に爆弾が落とされた時にダダダって揺れるんだわ。ほんとに恐ろしかった…。
(次号に続く)